

小田原歴史年表

時代	小 田 原 地 方		日 本	
弥 土 生 器 ・ 縄 文 代 ・	約 1.5 万年前	狩猟や採集の生活が行われる	前 2 世紀	狩猟生活が行われる 農耕生活が始まる
	1 世紀	農耕生活が始まる	1 世紀	小国家が分立する
大 和 ・ 奈 良 ・ 平 安 時 代	7 世紀 8 世紀	久野に高塚式古墳が作られる 中央貴族の封戸となる 足下郡の防人の歌、万葉集にの る	4 世紀 645 年 710 年 741 年 794 年 935 年 1086 年	大和朝廷の国土統一が 進む 大化の改新が始まる 都を平城京に移す 国ごとに国分寺を造る 都を平安京に移す 平将門の乱が起こる 白河天皇の院政が始ま る
	11 世紀	各地に荘園ができる（早川、成 田、大井など） 各地に武士がおこる（中村氏、 土肥氏など）		
鎌 倉 ・ 室 町 ・ 安 土 桃 山 時 代	1180 年（治承 4）	源頼朝が石橋山で平氏方に敗れ る	1192 年	頼朝が征夷大將軍とな る
	1193 年（建久 4）	曾我兄弟が富士の巻狩りで父の 仇を討つ	1221 年 1334 年 1338 年	承久の変が起こる 建武の新政が行われる 足利尊氏が征夷大將軍 となる
	1394 年（応永 1）	大森頼明が関本に最乗寺を建て る	1467 年	応仁の乱が起こる （以後、戦国の乱世と なる）
	1416 年（ 〃 23）	土肥、土屋氏が滅びる（上杉禅 秀の乱）		
	1495 年（明応 4）	北条早雲が小田原城をおとしい れる		
	1504 年（永正 1）	早雲に招かれた宇野藤右衛門が 秘薬「秀頂香」（ういろう）を 作る		
	1521 年（大永 1）	北条氏綱が湯本に早雲寺を建て る	1543 年	ポルトガル船が種子島 に漂着し、鉄砲を伝え る
	1552 年（天文 21）	北条氏康が管領上杉憲政を越後 に追い関東を制覇する		
	1561 年（永禄 4）	長尾景虎（上杉謙信）が小田原 に来攻する	1573 年 1590 年	室町幕府が減じる 秀吉が全国を統一する
	1569 年（ 〃 12）	武田信玄が小田原に来攻する		
	1590 年（天正 18）	豊臣秀吉が小田原城を攻めて、 北条氏を滅ぼす 大久保忠世が小田原藩主となる	1600 年	関ヶ原の戦が起こる

時代	小 田 原 地 方		日 本	
江戸時代	1619 年（元和 5）	箱根に關所が置かれる	1603 年	徳川家康が征夷大將軍となる
	1632 年（寛永 9）	稲葉正勝が小田原城主となる	1639 年 1649 年	鎖国令が出される 慶安の御触書が出る
	1638 年（ ” 5）	小田原宿に人馬 100 人、100 頭が置かれる		
	1658 年（万治 1）	藩主稲葉正則、全領地の検地を始める		
	1660 年（ ” 3）	関本の名主下田隼人、重税に苦しむ農民を救うため藩主に訴え死罪となる	1716 年	享保の改革始まる
	1670 年（寛文 3）	箱根用水が完成し、約 7000 石の増収が得られる		
	1686 年（貞享 3）	大久保忠明、佐倉から小田原に移され城主となる(10万3129石)		
	1703 年（元禄16）	江戸大地震により、領内の被害大きく、天守閣も破壊される	1783 年 1787 年	天明の大ききん始まる 寛政の改革始まる
	1707 年（宝永 4）	富士山の大噴火により、藩内一帯が降灰のため、大きな被害を受ける		
	1782 年（天明 2）	小田原地方に大地震があり、大きな被害を受ける		
	1787 年（ ” 7）	二宮尊徳が栢山に生まれる	1837 年	大塩平八郎の乱が起こる 天保の改革始まる
	1802 年（享和 2）	川口広蔵の指導のもとに荻窪堰が完成し、58 町余の水田が開発される		
	1822 年（文政 5）	藩主大久保忠真、城内三の丸（三の丸小の地）に藩校集成館を作る		
	1838 年（天保 9）	二宮尊徳、藩主忠真に依頼され分家宇津家の桜町領（栃木）の復興に当る	1841 年	
		小田原の俳人円城寺（六花苑）嵐窓死ぬ		
		二宮尊徳、幕府の普請役格となる		
	1842 年（ ” 13）	小田原藩が防備のため、小田原海岸に台場を造る	1853 年	ペリーが浦賀に来航する
	1850 年（嘉永 3）		1858 年	日米修好通商条約を結ぶ
	1862 年（文久 2）	小田原の画家岡本秋暉死ぬ	1867 年	江戸時代が減じる（大政奉還）

時代	小 田 原 地 方		日 本	
明治時代	1868 年（明治 1）	箱根戊辰の役が起こる	1869 年	版籍奉還
	1869 年（ " 2）	藩主大久保忠良が藩知事となる	1871 年	廃藩置県
	1871 年（ " 4）	小田原県が置かれたが、その年に廃され、足柄県となる		
	1872 年（ " 5）	小田原郵便取扱所が開設される	1872 年	学制を定める
	1872 年（ " 5）	藩校集成館を廃し、中学校と小学校ができる		
	1873 年（ " 6）	学制にもとづく小学校ができる	1873 年	地租改正条項が公布される
	1876 年（ " 9）	足柄県を廃し、神奈川県に編入される	1877 年	西南の役が起こる
	1878 年（ " 11）	小田原に足柄下郡役所を置く		
	1887 年（ " 20）	新橋一國府津間に鉄道が開通する		
	1888 年（ " 21）	国府津一小田原一湯本間に馬車鉄道が開通する	1888 年	町村制公布される
	1889 年（ " 22）	町制がしかれ、小田原町となる（人口約 1 万 6000 人）	1889 年	大日本帝国憲法が公布される
			1890 年	第 1 回帝国会議が開かれる
	1894 年（ " 27）	北村透谷が思想上の行き詰まりから自殺する（25 歳）	1894 年	日清戦争始まる
	1896 年（ " 29）	小田原一熱海間に人車鉄道が開通する		
	1900 年（ " 33）	国府津一小田原一湯本間に電車が開通し、また、この年に小田原に電燈がつく		
	1901 年（ " 34）	県立第二中学校が開校する（後の小田原高校）	1901 年	八幡製鉄所が創業する
	1902 年（ " 35）	小田原に大津波がおそい、大きな被害を受ける		
	1903 年（ " 36）	小田原に電話が開通する		
	1906 年（ " 39）	小田原一熱海間の人車鉄道が軽便鉄道となる	1904 年	日露戦争が始まる
	1908 年（ " 41）	町立小田原高等女学校が開校する（後の城内高校）	1914 年	第一次世界大戦に参加
大正時代	1918 年（大正 7）	北原白秋が「みみづくの家」を建てる		
	1920 年（ " 9）	熱海線が小田原まで開通し、箱根登山鉄道も開通する		
	1923 年（ " 12）	関東大震災が起こり、小田原も大被害を受ける		
	1925 年（ " 14）	大雄山線が小田原一関本間に開通する	1925 年	治安維持法、普通選挙法が公布される

時代	小 田 原 地 方		日 本	
昭和時代	1927 年（昭和 2）	小田急線が新宿—小田原間に開通する	1931 年 1933 年	満州事変が起こる 国際連盟を脱退する
	1934 年（ ” 9）	丹那トンネルが開通し、東海道本線が小田原市街地を通るようになる		
	1936 年（ ” 11）	小田原の上水道ができ、給水を始める	1937 年	日華事変が始まる
	1940 年（ ” 15）	小田原町、足柄町、大窪村、早川村、酒匂村の一部が合併して小田原市が誕生する（人口約 5 万 5000 人）		
	1941 年（ ” 16）	酒匂に大蔵省印刷局ができる		
	1945 年（ ” 20）	米空襲により浜町、本町の一部が焼ける	1945 年	太平洋戦争が終わる
	1947 年（ ” 22）	6・3・3 制により新制中学校が開校する	1947 年	日本国憲法が施行される
	1948 年（ ” 23）	下府中村が小田原市と合併する		農地改革が行われる
	1950 年（ ” 25）	小田原で子供文化博覧会が開かれる		
		桜井村が小田原市と合併する	1951 年	サンフランシスコ平和条約が結ばれる
	1954 年（ ” 29）	豊川村、酒匂村、国府津町、上府中村、下曾我村、片浦村が小田原市と合併する		
	1956 年（ ” 31）	曾我村の一部（上曾我、下大井、鬼柳、曾我大沢）が小田原市に編入する	1956 年	国際連合に加盟する
	1960 年（ ” 35）	小田原城天守閣が復興する このころ大工場の誘致が盛んとなる	1960 年	日米安全保障条約が改定される
	1964 年（ ” 39）	東海道新幹線が開通し、特急が小田原に停車する	1964 年 1965 年	オリンピックが東京で開かれる 日韓条約が結ばれる
	1966 年（ ” 41）	新住所が一部施行される		
	1968 年（ ” 43）	小田原漁港が完成する		
	1969 年（ ” 44）	小田原厚木道路が開通する	1969 年	東名高速道路が開通する
	1970 年（ ” 45）	鴨宮新貨物駅が操業を始める	1970 年	万国博覧会が大阪で開かれる
	1971 年（ ” 46）	橘町が小田原市と合併する	1971 年	沖縄返還協定が調印される
	1972 年（ ” 47）	西湘バイパスが全面開通する 学校給食センターが完成する	1972 年 1975 年	沖縄復帰、日中復交成る 冬季オリンピックが札幌で開かれる

時代	小 田 原 地 方		日 本	
昭 和 時 代	1976 年（ “ 48）	市の木（くろまつ）市の花（うめ）が制定される 荻窪 300 番地に新庁舎が完成する 小田原駅東口広場が整理され、地下街が完成する	1977 年 1978 年	成田空港が開かれる 日中平和友好条約が調印される
	1979 年（ “ 54）	東海地震に関わる地震防災対策強化地域に指定される		
	1980 年（ “ 55）	新中央公民館が完成する（市制 40 周年記念）		
	1981 年（ “ 56）	小田原新漁港が完成する		
	1988 年（ “ 63）	尊徳記念館改築完成		
平 成 時 代	1990 年（平成 2）	石垣山一夜城跡が歴史公園として整備される 市制 50 周年記念式典が行われる	1990 年	バブル景気が崩壊する
	1992 年（ “ 4）	本町小、城内小が統合され、三の丸小学校が開校する		
	1994 年（ “ 6）	「かもめ」図書館が開館する 小田原文学館が開館する		
	1995 年（ “ 7）	6 月 22 日、20 万人都市誕生、市の鳥（コアジサシ）が制定される	1995 年	阪神淡路大震災
	1996 年（ “ 8）	小田原市総合文化体育館・小田原アリーナが完成する		
	1998 年（ “ 10）	小田原城銅門が復元される	1998 年	冬季オリンピックが長野県で開かれる
	2000 年（ “ 12）	小田原市が特例市になる 小田原こどもの森公園わんぱくランドがオープンする		
	2003 年（ “ 15）	小田原駅東西自由連絡通路・アークロードが全面開通する		
	2004 年（ “ 16）	小田原駅西口駅前広場が完成する 小田原市教育都市宣言が制定される	2004 年 2005 年	新潟県中越地震 国際博覧会が愛知県で開かれる
	2007 年（ “ 19）	中央公民館が生涯学習センター本館「けやき」となる		
	2010 年（ “ 22）	片浦中学校閉校、城山中学校に統合される		
	2015 年（ “ 27）	おだわら市民交流センター UMECO がオープンする	2011 年	東日本大震災 福島第一原子力発電所事故が発生する

時代	小 田 原 地 方		日 本	
令和時代	2020 年（令和 2）	市立図書館が閉館する 小田原市立かもめ図書館を小田原市立中央図書館に改称（かもめ図書館は愛称として継続）する	2020 年	コロナ感染症対策のため全校の学校が一斉休校
	2021 年（ ” 3）	小田原駅東口図書館が開館する 小田原三の丸ホールがオープンする	2021 年	東京オリンピック・パラリンピック開催

主な参考文献

- 小田原市史（小田原市）
日本の歴史（読売新聞社）
日本の歴史（中央公論社）
郷土資料おだわら（小田原市教育研究所）
- 小田原の自然（小田原市教育研究所）
日本地理集成神奈川県地理（光文館）
小田原地誌（香川幹一・金子俊男）
はこね（箱根町教育研究所）
小田原市文化財調査報告書第三集（小田原市教育委員会）
馬場遺跡の縄文時代配石遺構（杉山博久）
- 神奈川県史 資料1（神奈川県）
中世社会の展望と地域変貌（中丸）
日本戦史（参謀本部）
小田原戦史（中村徳五郎）
後北条の覇業とその当時の小田原（中野敬次郎）
新編相州古文書（貫 達人）
北条史料集（萩原龍夫校註）
横浜市史第一巻（横浜市）
戦国大名（杉山 博）
概説北条幻庵（立木望隆）
久野の歴史 第一・二巻（立木望隆）
箱根町誌 第一巻（箱根町誌編纂委員会）
片岡文書（市立中央図書館）

二宮尊徳（奈良元辰也）
日本の名著「二宮尊徳」（児玉幸多）
川口広蔵と荻窪堰の由来（中野敬次郎）
ハコネ用水の話（タカクラテル）
二宮尊徳全集 第十四巻（二宮尊徳偉業宣揚会）
さかわ第五集（小田原市立酒匂中学校郷土研究部）
小田原市漁業史料（小田原市水産課 本多康宏）
日本漁業経済史（羽原又吉）
小田原桐座の発見（木村錦花）
小田原劇場物語（石井富之助）
小田原古今俳句集（飯田九一）
小田原近代百年史（中野敬次郎）
明治小田原町誌（片岡永左衛門）

福田正夫詩集（福田正夫詩集刊行会）
足柄下郡郷土読本（足柄下郡教育会）
小田原教育小史(2)明治初期の教育（高田 稔）
年表小田原の歴史（内田哲夫）
小田原の産業（市教育研究会小学校社会科研究部）
神奈川県勢要覧（神奈川県）
市の各種統計
おだわらの水（小田原市）
目で見る小田原の歩み（小田原市）
悠久の美（小田原市郷土文化館）
図説・小田原・足柄の歴史（播摩晃一他）

郷土読本「小田原」

発 行 日	令和4年3月31日
発 行 所	小田原市教育研究所 小田原市荻窪300 電話 0465(33)1730
発 行 者	石井 政道
印 刷 所	(有) 石橋印刷
表紙デザイン	宇城 はやひろ 氏 (漫画家)